

1. バス交通運行効率化関係経費（共同経営、まちなかループバス）

○路線バスの共同経営に関する取組状況

<R3年度の主な取組>

- ・共同経営計画（第1版）の実施
- ・共同経営計画（第2版）の検討着手
- ・バス共通定期券の導入準備
- ・「バス・電車100円の日」の企画（→中止）
- ・路線バスのデータ公表

<R4年度の主な取組>

- ・共同経営計画（第2版）の実施
- ・「バス・電車100円の日」の実施
- ・バス共通定期券の運用開始
- ・バスロケータを活用した定時性の向上
- ・路線バスのデータ公表

○まちなかループバスに関する取組状況

<利用状況>

- （令和3年4月～令和4年1月末）
- ・延べ運行日数 100日
 - ・延べ利用者数 32,666人
 - ・日毎平均利用者数 327人
- ※12月、1月は速報値

<主な効果と課題>（アンケート調査より）

- ・65%以上の利用者が満足
- ・主な移動の目的は、食事、買い物、娯楽であり、まちなかでの回遊性向上に寄与
- ・一方、利用していない人の半分以上は、「ループバスバスを知らなかった」と回答。認知度の向上等が課題
- ・また、車両やのりばが分かりにくい等の意見あり

<R4年度の主な取組（予定）>

- ・運行時間帯の拡充（拡充実施時期等協議中）
- ・スタンプラリーの実施などによる広報・周知の強化
- ・車両やのりばの視認性向上

2-1. 新規モビリティサービス推進経費（AIデマンドタクシー）

既存公共交通との連携による利便性の向上や高齢者の移動手段など、今後の新たなコミュニティ交通としての可能性を検討

- R3年度は、健軍地区周辺において産学官による実証実験を実施。AIデマンドタクシーの認知度向上を図るとともに、相乗りの許容度、アプリの使いやすさなどについて検証

[実証実験利用者数]

期間	アプリ	電話	合計（うち相乗発生）
R3.10/11～11/22 平日のみ	約120件	約360件	約480件（約40件）

- R4年度は、本年度の実証実験の課題や国の相乗り制度解禁の内容を踏まえ、市街地部・郊外部の2つのエリアでの実証実験を行い、地域特性に応じたコミュニティ交通の仕組みを検証

2-2. 新規モビリティサービス推進経費（MaaS）

MaaS（※）の導入により、あらゆる手段で円滑に移動できる交通環境を整備し利便性の向上を図る

- R3年度は、関係者間で勉強会やMaaSセミナーを実施し、情報の共有や方向性を整理
- R4年度は、関係者との意見交換を引続き行いながら、熊本に最適な“熊本版MaaS”の導入にむけた具体的な取組を検討

[主な取組（予定）]

1. データ基盤整備、経路検索プラットフォームへの反映
2. 新たな移動サービスの導入にむけた取組
3. 多様な関係者との連携・情報共有
4. ランディングページ構築等によるMaaSの認知度向上

（※） 情報通信技術を活用して、複数の公共交通や、それ以外のサービスを最適に組み合わせ、効率的な移動手段や経路などを利用者に提供するサービス